



Fashion Channel News

- July, 2017 -

- #1454 2017 Spring/Summer Tokyo Collection Report8
[収録ブランド] ウミット・ベナン / ヨシオクボ / ユキ・トリキ・インターナショナル / ユマコシノ / ジン・カトー
- #1455 2017 Spring/Summer Paris Haute Couture Collection Report
[収録ブランド] ディオール / ジョルジオ・アルマーニ・プリヴェ / イリス・ヴァン・ヘルペン / ヴェトモン / ヴィクター&ロルフ / ユイマ・ナカザト
- #1456 2017-18 Fall/Winter Milan Men's Collection Report1
[収録ブランド] セドリック・シャルリエ / ディーゼル・ブラック・ゴールド / ドルチェ & ガッバーナ / ディースクエアード / エルメネジルド・ゼニア
- #1457 2017-18 Fall/Winter Milan Men's Collection Report2
[収録ブランド] エトロ / フェンディ / ジョルジオ・アルマーニ / マルニ / ミッソーニ
- #1458 2017-18 Fall/Winter Milan Men's Collection Report3
[収録ブランド] モンクレール・ガム・ブルー / モスキーノ / エムエスジューエム / ニール・バレット / ヌメロ・ヴェントゥーノ



7-17-14 Roppongi Minato-ku Tokyo 106-0032
TEL. 03-3746-3323 FAX. 03-3408-5549
URL. <http://fashionnews.co.jp> E-MAIL. info@fashionnews.co.jp

Collection

#1454

ノージェンダーxストリート。独自色を強めた東京トレンドとは？
2017 春夏 東京コレクション



東京発のファッショントレンドを世界に向けて発信する「Amazon Fashion Week Tokyo」が2016年10月17日～23日、東京・渋谷ヒカリエをメイン会場に開催された。2017春夏シーズンはメルセデスベンツからアマゾンジャパンに冠スポンサーが変わり、装い新たに開催された。参加ブランドは約50。そのうち、初参加は「KOCHE(コーシェ)」「Umit Benan(ウミット・ベナン)」ら海外ブランドや、谷田浩と西本絵美が手掛ける「bedsidedrama(ベッドサイドドラマ)」、村松祐輔と関口愛弓による「MURRAL(ミューラル)」といった日本勢を含む10ブランド。また、ミュージシャンのYOSHIKIが2回目のコレクションを披露したほか、渋谷のファッションビルが一体となって開催するSHIBUYA FASHION WEEKで路上ファッションショーを披露するなど、見所満載のイベントとなった。



トレンドは東京ブランドが得意とするストリートスタイルを意識しつつ、日本の伝統文化を織り交ぜたり、性差の垣根を取り払ったジェンダーレスなアイテムが登場。全体的にリラックス感漂うゆったりシルエットで、スカートはボリューム感のあるマキシ丈、パンツはフルレングスのワイド。欧州コレクションに追随するかのようには、メンズとウィメンズのモデルが入り混じってランウェイを歩く形式が増えているのも特徴だ。



注目ブランドは来期からパリコレ進出を発表した「beautiful people(ビューティフル・ピープル)」。東コレ最後のショーとなった今シーズンは、デザイナーの熊切秀典の名前にちなみ、テディーベア(熊)をシグニチャーアイテムに掲げた。コレクションテーマは“Do it Ourselves



(自分たちでやってみよう)”。トレンチコートをスリーブレスにしたリ、ボリューム感のあるフレアスカートを前後の長さを変えてアシンメトリーにデザインするなど、ベーシックアイテムに動きをつけたアイデアで勝負している。起毛素材で仕立てられたセットアップパンツやボアサンダルなど、テディーベアのアイデアはアクセサリーにとどまらず、スタイル全体に生かされている。

勝井北斗と八木奈央がデザインする「mintdesigns(ミントデザインズ)」は“SUBWAY”をテーマに、都会的なイメージを漂わせるストリートウェアを発表した。ニューヨークの地下鉄で見られるグラフィティ風プリントをあしらったワンピースや、布を編みこんでひも状にし、ウエストをたぐり寄せたチュニックとワイドパンツの組み合わせ、ギャザースカートとワイドパンツの重ね着など、どのスタイルもどこかジェンダーレスな雰囲気が漂う。アクセントとして用いられているひもの結び目や垂れ下がったデザインも要チェック。

Collection

#1455

アジア発信ブランドが新風を呼び起こす

2017 春夏 パリオートクチュールコレクション



2017 春夏シーズンの最後を飾るパリオートクチュールコレクションが1月22日～26日の5日間にわたって開催された。今期はパリの老舗ブランドに加え、中国、韓国、インドネシアなどアジア発信ブランドが参加。2016-2017 秋冬シーズンにデビューを果たした「YUIMA NAKAZATO(ユイマ・ナカザト)」に続けとばかりにアジア勢が勢力を拡大している。今も厳格な審査基準を残すオートクチュール業界の中でどこまで実力を発揮できるのか、今後の活躍に期待したい。

最も注目したいのは創業以来、はじめて女性デザイナーを迎えた「DIOR(ディオール)」。マリア・グラツィア・キウリが手掛ける初のコレクションでは「迷宮」をインスピレーション源に、チュールやフラワー刺繍で彩りを添えた神秘的なドレスが提案された。ショーの様様をライブストリーミング配信するなど、新たな試みにも挑戦している。

パリオートクチュールに参加して2シーズン目を迎える「YUIMA NAKAZATO(ユイマ・ナカザト)」は「火、風、土、水」をテーマに、4つの元素が融合することで生まれる世界をファッションに落とし込んだ。3Dプリントやレーザーカッターで加工されたパーツは、針と糸を使わずにつなぎ合わされ、一枚のドレスが完成する。半透明の素材とフリンジを全面にあしらひ、フューチャリスティックに仕上がっている。

Collection

#1456-#1458

オーバーサイズとスリムストレート。シルエットが二極化

2017-2018 秋冬 ミラノメンズコレクション

マウンテンパーカやダウンコート、MA-1、カモフラージュ柄のセットアップなど、アウトドアアイテムが多数提案された2017-2018 秋冬メンズコレクション。ここ数年続くオーバーサイズ傾向は、ムートン、ローゲージニット、ダウンといったボリュームのある素材と相まって一層拍車がかかっている。コクーンシルエットやラグランスリーブが目立ち、肩回りが巨大に進化しているのが特徴だ。その対極にあるのはプリティッシュトラッド。オーバーサイズ化に異を唱えるような極限までタイトなシルエットのフォーマルスーツもトレンドに浮上した。基本のシルエットはスリムストレート、またはリラックステーパー。指先まですっぽりかくれる長い袖、故意にずらしたボタン位置など、ちぐはぐに見えるディテールも登場している。番組ではミラノメンズからメンズファッション見本市「ピッティ・インマーチェ・ウオモ」5ブランドを加えた26ブランド、パリメンズから22ブランドを厳選して紹介する。



ミラノメンズで最も注目したいのはデザイナー交代で話題をさらった「マルニ (MARNI)」。創業者兼クリエイティブ・ディレクターとして20年以上にわたりブランドを支えてきたコンスエロ・カスティリオーニ (Consuelo Castiglioni) が退任し、2017-2018 秋冬よりフランチェスコ・リッソ (Francesco Riso) が抜擢された。デジタルサイネージに彩られたステージに登場したのは色、柄、素材、テイストを過剰に組み合わせた一見ちぐはぐなスタイル。コーデロイのセットアップのジャケットには毛足の長いファー襟があしらわれ、ラグジュアリーなファーコートとスニーカーをコーディネート。毛足の異なるファーをパッチワークして仕立てたジャケットにはハイウエストパンツとボーダーニットを組み合わせている。